

夕暮れ時 急にあたりが暗くなって 周囲の様子がわかりにくくなることがあります 特に車を運転しているとそれを感じます そんな時間帯を「逢う魔が時」と呼びます 「おうまがとき」と読みます 昔の人はこういう時間帯に魔物や妖怪が出現すると思ったのでしょうか しかし一方で 私はこの時間帯の郊外の街道の風景が好きです



これが完成した絵です



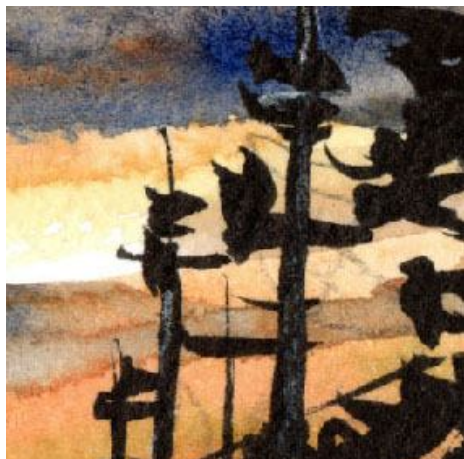
1、木々の隙間に見える夕暮れの空 さまざまな色の絵の具を使い 偶然の滲みをそのまま生かします



2、樹木の葉と枝は すべてシルエットで描きます 細い筆で軽妙なタッチで 短時間で描き切ります



3、信号機は この構図では非常に重要です 1機でなく2機にしたところに意味があります



4、電柱も大切な要素です 電柱は人の営みを感じさせ 同時に遠近感も表現できます



5、木々の間に見える民家の灯火 これも人の生活を感じさせます



6、道路の輪郭は ほんの少しだけ「塗り残す」ことで表現しました